

文部科学省は学術面において時代の変化に対応させながら高度化を進める方向を打ち出しています。その一つが「私立大学学術研究高度化推進事業」です。その中で学術における「特区」ともいえるのが「学術フロント」を推進する「学術推進事業」です。吉備国際大がそれに採択された平成15年度には全国で21大学が選ばれましたが、文化財分野では本



吉備国際大教授
白井洋輔氏

大学が初めてのこともあって、大変大きな反響と期待が集まりました。連載をスタートするにあたって、新しく建設された「文化財総合研究センター」を拠点にして、私たちは一体何を目指しているのかを明らかにしたいと思います。

元来人間は不安と希望に満ちあふれた文化的動物です。しかも現代は激動の時代」といわれ、そのブレの振幅が次第に大きくなっていくことは誰しも感じていると思いま

時代切り開く「鍵」探ろう

学術フロンティア推進事業

まどついていると思いませんか。打つ手はあるのでしょうか。こうした時、歴史とか文化という長いスパンで物事を考えて対応することがどうしても必要だと思えます。そうした状況で私たちは伝統文化と近代科学を融合させて新しいもの考え方や技術を開創し出すとしていくのです。

一般的に混沌状態の中では大切なものが見えにくくなります。そうした場合、敵前突破しようとするれば、さらに最先端の新しいものにするがうとする傾向が人間にはあります。私たちはこれありの人間の英知を再結集し、さらに新しい発想と必要な技術を使っよう

変動幅が大きいほど矛盾が大ききということもあり、乗りこえて得たものは何よりもまして大きく光り輝けるのです。実は歴史がそのことをよく示しています。

一例に桃山文化を見てもよいでしょう。戦国時代という大混乱時代に追いつけるように全くと現れ、一層その直後に日本人は世界に誇る一級の桃山文化創造してきたことは承知の通りです。混雑はピンチであると同時にチャンスな

学術フロンティア事業というのは、まさにこうした時代状況の中で、新しい時代と価値創造のた

す。地球の裏側で起こっていることも、誰もがリアルタイムで情報として知っている情報化社会にあって、この世界が、この日本がどこへ行くことしているのか誰にも分かりません。この不思議な現実にも、また誰しもが

くぐり抜ける方法を「thinking back」(積極的振り返り)しようと思っ



復元された国主赤鞆(あかがわおしよ)。文化財に信じられないほどの時代の熱気や技術情報が詰まっている(高梁市立歴史美術館蔵)



吉備国際大の文化財総合研究センターの基礎工事。学術フロンティア事業は、ここからスタートした

トなのです。これから原則として毎週土曜、文化財総合研究センターの専門スタッフが、リレー講義形式で私たちが目指しているもの、できるだけ分かりやすく説明していきます。どうぞご期待下さい。

連載「よみがえる文化財 美術品修復の現場から」がスタートしました。これから約30回、毎週土曜日に掲載する予定です。

皆さんを未知の世界へ

ちが美術館や博物館で鑑賞する絵画や仏像などは、年月の経過の中で劣化したり、思わぬダメージをうけているケースが多いです。それを修復するための重要な技術が、修復と保存の鍵となつてい

技術です。

01年4月、吉備国際大(高梁市)に文化財修復国際協力学が誕生しました。文化財修復のスペシャリストの養成を目的とする全国でも珍しい専門教育機関です。この連載では

同学科の6人の先生にリレー形式で講義してもらいます。絵画や古文字書修復の伝統技法はもとより、文化財の非破壊分析など最先端の科学を駆使した技法など、皆さんを未知の世界にご案内します。